

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21005

建築物名称	(仮称)百合ヶ丘トレーニングセンター新築工事
建築主	Meiji Seika ファルマ株式会社 代表取締役社長 小林 大吉郎
建築物の所在地	川崎市多摩区南生田四丁目7000番2他
設計者氏名、建築士事務所名	河合 純 戸田建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,873.54m <sup>2</sup>
用途	研修所
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上3階、地下1階
工事完了予定年月	令和5年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)百合ヶ丘トレーニングセンター新築工事	階数	地上3F、地下1F
建設地	川崎市多摩区南生田四丁目7000番2地	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所,ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年4月21日
敷地面積	7,573 m <sup>2</sup>	作成者	(株)エネ・グリーン定森淳一
建築面積	2,407 m <sup>2</sup>	確認日	2021年4月22日
延床面積	5,874 m <sup>2</sup>	確認者	戸田建設(株)河合純

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 84%  
③上記+②以外の 84%  
④上記+ 84%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・材料: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・材料

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>3.4</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地保全への配慮		
2 まちなみ・景観への配慮	景観条例を満たす	3.3/4.3	3.8
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.6</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	ホテル宿泊部:カーテン、庇で制御	1.1/1.5	3.9
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地保全への配慮		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	景観条例を満たす	1.7/2.3	3.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.80		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI <sub>m</sub> =0.79	3.6/5.0	3.6
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	自動水栓に加え、節水型便器の採用		
2 非再生性資源の使用量削減	LGS、軽量鉄骨下地の採用	3.4/4.7	3.6
3 3.2 フロン・ハロンの回避	A種断熱材を採用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.5</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	空調換気ダクトはガルバリウム鋼板採用 給排水配管は上位3種がB以上、Eは不使用	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	自動水栓に加え、節水型便器の採用	2.9/4.0	3.6
2 非再生性資源の使用量削減	LGS、軽量鉄骨下地の採用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>3.4</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.7/2.3	3.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.80		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI <sub>m</sub> =0.79	3.6/5.0	3.6
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.80		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI <sub>m</sub> =0.79	3.6/5.0	3.6
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数				
Q	G	W	R	H											
<b>Q 建築物の環境品質</b>											3.2				
<b>Q1 室内環境</b>											3.0				
<b>1 音環境</b>											3.1	0.15	3.2	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル											3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音											3.4	0.40	3.7	0.40	
1 開口部遮音性能											3.0	0.76	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能											5.0	0.24	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												-	4.0	0.20	
1.3 吸音											3.0	0.20	3.0	0.20	
<b>2 温熱環境</b>											2.1	0.35	3.0	1.00	2.4
2.1 室温制御											3.2	0.50	3.8	0.50	
1 室温											3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能											4.0	0.25	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性											3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御											1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式											1.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>											3.1	0.25	3.4	1.00	3.2
3.1 昼光利用											2.8	0.30	2.4	0.30	
1 昼光率											2.0	0.60	2.0	0.60	
2 方位別開口												-		-	
3 昼光利用設備											4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策											3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御											3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度											4.0	0.15	5.0	0.15	
3.4 照明制御											3.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>											3.5	0.25	3.5	1.00	3.5
4.1 発生源対策											4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質											4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気											2.2	0.30	2.6	0.38	
1 換気量											3.0	0.40	3.0	0.33	
2 自然換気性能											3.0	0.20	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮											1.0	0.40	1.0	0.33	
4.3 運用管理											4.4	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視											3.0	0.30		-	
2 喫煙の制御											5.0	0.70		-	

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.1					
<b>1 機能性</b>					<b>3.3</b>	0.40	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>				
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					<b>2.6</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60					
1	広さ・収納性				1.0	0.20	3.0	0.50					
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.20	3.0	0.50					
3	バリアフリー計画				3.0	0.60		-					
<b>1.2 心理性・快適性</b>					<b>4.2</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.40					
1	広さ感・景観			事務用途：研修室天井高2.80m、窓設置 ホテル用途宿泊部：居室天井高2.50m	4.0	0.20	4.0	0.50					
2	リフレッシュスペース			リフレッシュスペースの確保、自販機設置	5.0	0.20		-					
3	内装計画			内観パースの作成	4.0	0.60	4.0	0.50					
<b>1.3 維持管理</b>					<b>3.5</b>	0.30		-					
1	維持管理に配慮した設計			防汚性の高い建材の採用	4.0	0.50		-					
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-					
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>				
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					<b>3.0</b>	0.50		-					
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-					
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					<b>3.3</b>	0.30		-					
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20		-					
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20		-					
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10		-					
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		ガルバリウム鋼板採用	4.0	0.10		-					
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		上位3種がB以上、Eは不使用	5.0	0.20		-					
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20		-					
<b>2.4 信頼性</b>					<b>3.0</b>	0.20		-					
1	空調・換気設備			節水型便器の採用	3.0	0.20		-					
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20		-					
3	電気設備				3.0	0.20		-					
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-					
5	通信・情報設備				2.0	0.20		-					
<b>3 対応性・更新性</b>					<b>3.2</b>	0.30	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.8</b>				
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>4.2</b>	0.18	<b>1.0</b>	0.50					
1	階高のゆとり			事務用途：基準階階高4.90m	5.0	0.60	1.0	0.60					
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	1.0	0.40					
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					<b>3.0</b>	0.18	<b>3.0</b>	0.50					
<b>3.3 設備の更新性</b>					<b>3.0</b>	0.64		-					
1	空調配管の更新性				3.0	0.20		-					
2	給排水管の更新性				3.0	0.20		-					
3	電気配線の更新性				3.0	0.10		-					
4	通信配線の更新性				3.0	0.10		-					
5	設備機器の更新性				3.0	0.20		-					
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-					
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					0.30	-	-	<b>3.7</b>					
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W		H	緑地保全への配慮	4.0	0.30		-	4.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G				景観条例を満たす	4.0	0.40			4.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									3.0	0.30			3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									3.0	0.50			
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W		H		3.0	0.50			

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4	
LR1 エネルギー						0.40				3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	BPI <sub>m</sub> =0.80		5.0	0.20				5.0
2 自然エネルギー利用	W		H	ハイサイドライト相当採用		4.0	0.10				4.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] = 0.79		3.1	0.50				3.1
4 効率的運用						3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00				
4.1	モニタリング	W		H		3.0	0.50				
4.2	運用管理体制	W		H		3.0	0.50				
集合住宅の評価											
4.1	モニタリング	W		H							
4.2	運用管理体制	W		H							
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.6	
1 水資源保護	W		R			3.4	0.20				3.4
1.1	節水				自動水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40				
1.2	雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70				
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減						3.7	0.60				3.7
2.1	材料使用量の削減	W		R		3.0	0.10				
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.20				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R		3.0	0.20				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R	押出法ホリスチレンフォーム(断熱材)、タイルカーペット(床材)、ビニル床シート(床材)	5.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W		R		2.0	0.10				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	LGS、軽量鉄骨下地の採用	5.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.6	0.20				3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用				有害物質を含まない防水工事のプライマー採用	4.0	0.30				
3.2	フロン・ハロンの回避					3.5	0.70				
1	消火剤	W				-	-				
2	発泡剤(断熱材等)	W			A種断熱材を採用	4.0	0.50				
3	冷媒	W				3.0	0.50				
LR3 数地外環境						0.30				3.2	
1 地球温暖化への配慮	W				LCCO2排出率=84%	3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮						3.0	0.33				3.0
2.1	大気汚染防止					3.0	0.25				
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W		H	3.0	0.50				
2.3	地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減				R	3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制				R	3.0	0.25				
3	交通負荷抑制				R	3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制				R	3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮						3.2	0.33				3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				
1	騒音					3.0	1.00				
2	振動					-	-				
3	悪臭					-	-				
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				
1	風害の抑制					3.0	0.70				
2	砂塵の抑制										
3	日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3	光害の抑制					4.4	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				チェックリストの過半を満たす、広告物照明無し	5.0	0.70				
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				